

議長	局長	次長	係長	係
				

第 8 号	受 付
令和 5 年 8 月 22 日	
陳 情	

阿久根 市議会

令和 5 年 8 月 22 日(火)

議長 仮屋園 一徳 殿

【阿久根市議会議員の議員報酬の見直しについての陳情】

氏名 鶴園 良文

住所 阿久根市

氏名 新町 成昭

住所 阿久根市

### 陳情書

今年4月、阿久根市議会は報酬を月額4万円、年63万円も増額されました。また、国家公務員の適用人員の平均ベースアップは月額3,896円です。2022年の市民の一人当たりの平均所得は約213万7千円です。

その倍ほどもあった議員報酬をさらに大幅アップされ、年に約500万円近くしたことに驚きと怒りを覚え、そして深い悲しみに暮れています。

議会への出勤日数は年間 約55日ほどしかないこと、議員の待遇改善は市民生活の向上につながらないばかりか財源を圧迫するので、議員報酬の増額は不当と考えます。

税金・人口・市民の暮らし等を考慮した上での可決だったら大半の市民が納得したでしょうが、よりもよってコロナ禍と物価高騰などで困窮している市民の暮らし等を考えると出水市なみは、大半の市民が納得しません。

また、市民の意見がほとんど反映されていないやり方そのものが民意にそぐわないことから、広く市民に意見を聞くことからスタートしていたら、ここまで市民の怒りをかうことは起きなかったと考えます。

議員さんは、市民から選ばれた代表である以上、市民の方を向いて 又は市民の声に耳を傾けて判断するべき課題ではなかったのでしょうか。

阿久根市の大企業さえも月額4万アップするところは、どこを探してもありません。この様な財源があるのであれば 年金低受給者に分配するべきです。

鹿児島が生んだ政治家 故 山中貞則氏の箴言集一説の中に好きな言葉があります。

「光の当たらないところに 光をさし延べるのが政治家である !!」

このことを踏まえて議員報酬を増額前の状態に戻すと共に市民の苦境に寄り添う議会になることを切望します。

### 記

1. 議員報酬を増額前の状態に戻すこと。